

国際協力Ⅳ

現地研修（海外研修生の活動）

日時：平成23年11月12日（土） 10:00～15:00

講師：小杉 裕一郎（オイスカ中部研修センター 所長代行）

概況



◎現地研修（海外研修生の活動）

1. オイスカ(OISCA-International)について(講師:小杉裕一郎氏)

「人づくり」を目標に1961年に創設された日本発祥の国際団体である。オイスカの頭文字はそれぞれ Organization(機構)、Industrial(産業)、Spiritual(精神)、Cultural(文化)、Advancement(促進)、International(国際)を表す。

オイスカ研修生は農業等の研修を通して、日本で様々な技術等を学び、帰国後は学んだ技術を自国に広め、自らが先頭に立って活動を行っている。

オイスカの財産は、「人との絆」である。

2. バングラディッシュにおける国際協力(講師:モハマド・ラヒム・ウラ氏)

・バングラディッシュについて

面積:147,570 km²、人口:150 百万人、年間降水量:2,000～3,000 mm、言語:ベンガル語、首都:ダッカ(近年、高層ビルが増加)。

貧困層が全人口の80%を占めており、残りは、中流層が17.5%、富裕層が2.5%を占める。貧困層は一日当たり4～6\$の稼ぎであり、中流層は一日当たり6～10\$、富裕層は一日当たり300～1,000\$稼ぐ。安い労働力を求めて、海外の企業は、バングラディッシュに進出してきている。

主な農作物は、米、ジュート、お茶。人口が多いため、米は自国の生産量だけでは不足しており、輸入もしている。米の生産は、現在、手作業が主体となっているので、今後、徐々に機械化して、農作業の効率化を図りたい。

・OISCA バングラディッシュ研修センター

バングラディッシュでは、貧困層の削減が大きな課題となっている。オイスカでは、農村開発を第一に捉え、そのリーダーとなり得る農村青年の育成こそが重要であるとして、1981年に研修センターを設立した。年間約20名の研修生を受け入れ、共同生活や規律訓練を通して、社会に出ても通用するような人材育成を努めている。

3. オイスカの目指す人材育成(講師:彦坂延良氏)

農業や工業の技術面だけでなく、様々な困難に耐えうる強さや、他と調和できる柔軟性を培うために、規律ある日常生活を通したオイスカ独自の研修プログラムを実施している。

日本での研修を終えて帰国した研修生OBたちは、学んだ経験を活かして、自国で活躍している。